コミュタン福島における取組

福島県環境創造センター　柳沼 平

福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」は、放射線に関する正確な理解を促進し、また、原子力災害を経験した福島県の現状を伝えることを目的とした展示室等を備えた施設として、2016年7月21日にオープンしている。
「コミュタン福島」における役割として、情報発信、人材育成、団体交流の場の提供などを担っているところであり、以下では県内小学校における放射線教育への支援についての取組について紹介する。

福島県内小学校における原子力災害後の状況

1. 放射線や原子力災害を受けた福島の状況についての理解不足

2. 根強く残る福島への風評　不当な差別（いじめ問題など）

これらは、福島で生まれ育つ子どもたちが今後も背負う問題

3. 放射線や福島の状況をきちんと理解し、自らの言葉で伝えることが必要

4. 放射線や福島の状況について、子どもたちが主体的に学べる施設 コミュタン福島 を整備

コミュタン福島 外観

原子力災害について学ぶエリア

放射線について学ぶエリア

ドームシアター外観（左上）

子どもたちをターゲットにしたコミュタン福島における学習

子どもたちが主体的に学べるように、

- 体験型の展示で、子どもたちの興味を喚起
- 対話を重視したハードとソフトで、コミュニケーション促進

展示での学習内容

- 原子力災害の経過やその影響、災害対応
- 放射線の基礎知識
- 再生可能エネルギーの概要

実験講座の内容

- 身の回りの放射線の測定
- 霧箱で放射線の性質の観察
- 再生可能エネルギーによる発電体験

身体を動かして

タブレットPCで

観察する

360°の映像・音響

覗いてみよう

運営スタッフと

展示を活用して

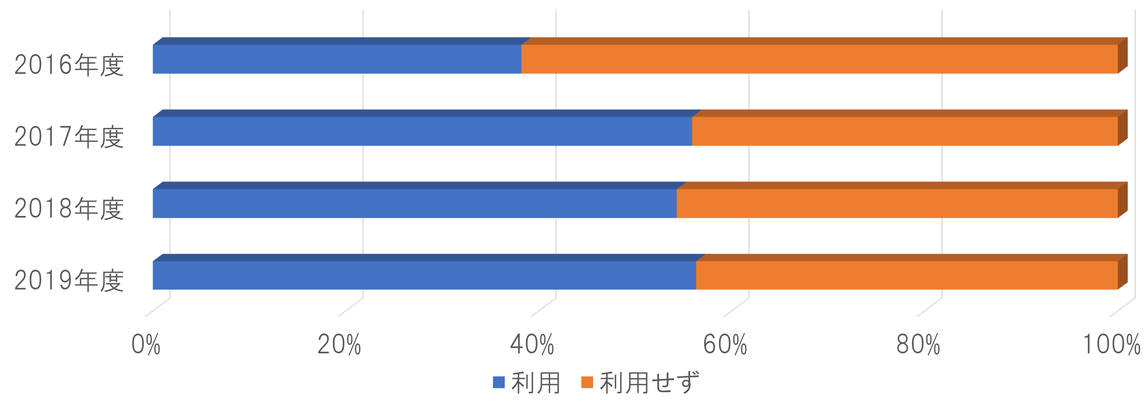
実験講座で

小学校によるコミュタン福島利用状況

福島県内小学校の利用実績（学校行事での利用）

- 2016年度　185校　8,436人　※ 8月からの実績
- 2017年度　267校　11,484人
- 2018年度　253校　11,113人
- 2019年度　258校　11,168人

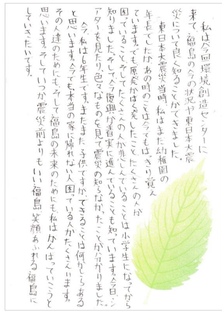
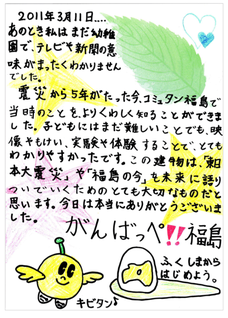
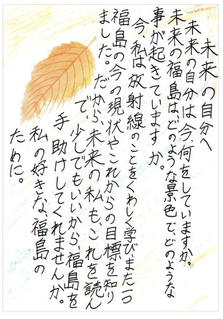
※ 2019年度の利用割合は、福島県内小学校全体の56.3%



福島県内小学校のコミュタン福島利用割合（%）

福島県内の小学校における放射線教育の一環で利用

引率教諭の声

- 普段、原発事故や放射線のことを考えることもあまりない子どもたちですが、改めて自分の身近な問題としてじっくりと考えることができました。
- 放射線ラボでは、難しい内容を身近なものに例えたり、ゲームを通して学べたり、様々な工夫がされており楽しく学ぶことができました。

子どもたちのメッセージ